



# ブチハイエナの群れ飼育

高知県立のいち動物公園

木村夏子, 勝木泰, 原浩二

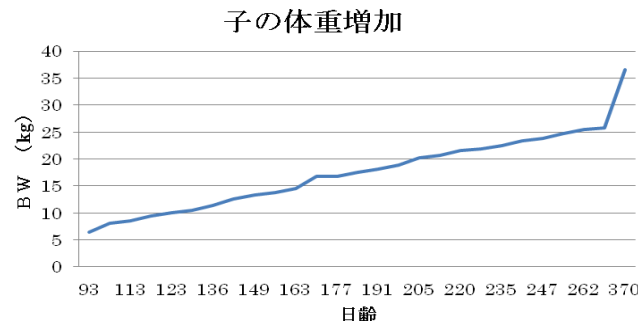
ブチハイエナ (*Crocuta crocuta*) は野生下において多い時には 20 頭規模の群れで生活しているが、国内ではこれまで両親と子を含む 3 頭以上の群れ作りには成功していなかった。今回、2013 年 4 月に両親と子の 3 頭による群れ作りに成功したため、その事例を報告する。

## 経緯

2010 年 11 月 タンザニアよりブチハイエナのペア (推定 2 歳) を導入

2012 年 10 月 2 日 子(オス)1 頭誕生

2012 年 11 月 屋外展示場に放飼 (55 日齢)



## 見合い

2013 年 3 月 13 日 (162 日齢)

3 頭の同居に向けて見合いを開始。

寝室間の扉の目隠し板を外し、寝室 1 部屋を隔てて格子越しに見合い。

メス親が大きな声で「ム`ーム`ー」泣き続ける。子は警戒しているが、格子前までオス親を見に来る。見合い開始 30 分後、子の背部より出血。メス親が興奮して咬んだと思われる。子は 1 時間ほどで飽きて関心を示さなくなる。

3 月 18 日 (167 日齢)

格子一枚越しに見合い。子は警戒することなく格子まで近づいてくる。

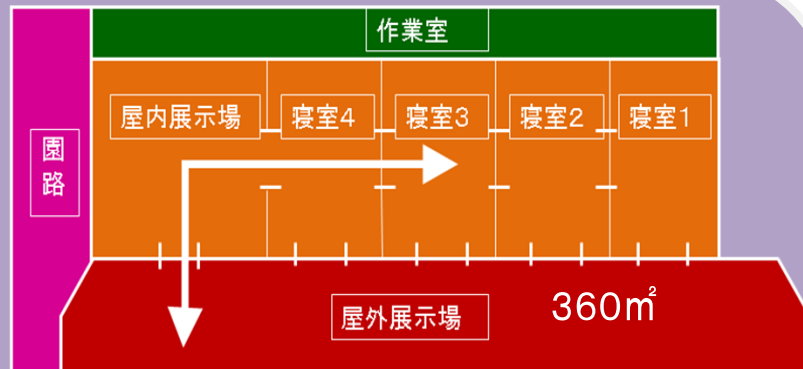
オス親は子に強い関心を示す。メス親はオス親に強い関心を示す。攻撃的な行動は見られない。

開始 10 分でメス親と子の寝室を屋外展示場まで開放すると子はすぐ出ていく。オス親への関心は低い。

見合い後半になるとオス親が格子越しに咬んでじゃれようとする。

20 分で見合いは終了。翌日以降、子は見合い開始 5 分ほどで興味を失って格子から離れる。

放飼中も寝室~屋外展示場間を開放しておき、寝室に戻れば対面できる状態で見合いを行う。



## 母子分離訓練

3 月 25 日 (174 日齢)

母子を格子の扉で仕切りメス親のみを屋外に出られるようにする。

子には気を紛らわすため骨を与えておく。開始から 5 分程度は骨を加えたまま格子前をウロウロしているが、しばらくすると落ち着いて骨を噛り出す。メス親が屋外に出てしまい、姿が見えなくなっても落ち着いている。

15 分程度で終了。

格子越しに接触できる状態での見合いは、慣れてくるとじゃれ合いなどから大きなケガになる場合があるため短時間で観察時のみ。

視界を遮る物が展示場がないため寝室 1-2 間と寝室 3-屋内展示場間を開放した。

関係が安定するまでは、双方の同居によるストレスを考え午前中はオスを単独で展示場に放飼し午後から (3~4 時間) 3 頭での同居とした。

## 同居

4 月 1 日 (181 日齢)

3 頭での同居前に両親の個体関係を確認するため、メス親とオス親の同居を実施。

同居直後は半年ぶりの接触を喜ぶように大きな声で「ム`ーム`ー」と鳴き、互いに陰部の臭いをかぎ合う友好的な挨拶が見られる。

しかし寝室にいた子はその声を聞いて、留守番訓練の時と状況が異なることに気づいたようで、激しく鳴きメス親を呼ぶ。

メス親は寝室に飛んで戻り、格子越しに子の様子を確認すると、オス親を追いかけだす。オス親は鳴きながら逃げるのみ。状況が変わらないので 20 分で終了。

4 月 3 日 (183 日齢)

子のオス親からの避難場所として、屋外展示場に U 字溝を設置。

子は設置 3 時間後にはメス親との追いかけっこで逃げ切れなくなると、U 字溝に逃げ込むというように使い道を理解。

4 月 8 日 (188 日齢)

3 頭での同居 1 時間。子は警戒し腰が引けているが展示場でメス親がオス親を追いかけているのを見ると豹変し一緒になって追いかけ始める。メス親が追うのを止めても単独で追い続けている。オス親は鳴きながら逃げる。時間が経つとオス親は逃げながらも口を開けて頭を下げた低姿勢でメス親と子に挨拶を試みており、メス親と子もそれに応じる様子が見られるようになる。翌日以降はオス親が追われるのは最初の 5 分程度で、それも回数を重ねるごとに減少し、いずれ消失した。



## 考察

メスが優位なブチハイエナの群れで、出産前に当園の 2 個体間に明確な主従関係はなく、雌雄が非常に友好的であったことが群れ作り成功の要因と考えられる。

また同居前にメス親がオス親に対して見せた友好的な行動や、日々の様子からメス親の子への執心の薄れを読みとり同居のタイミングの判断をできたことから、日常的に個体関係を注視しておくことが重要だと考えられた。今回の例を踏まえるともう少し早い段階での同居も可能と考えられる。

単独生活中、オス親は食欲の減退、セルフグルーミングの増加、ヒトへの強い依存などが見られたが、見合い開始時からこれらの行動は改善された。

同居後の 4 月 25 日にメス親オス親の交尾を確認し、8 月 20 日に第 2, 3 となる子が誕生した。メス親は出産のため群れから離れたが、オス親と子の関係は安定しており、単独生活をさせることなく群れの状態を維持できている。今後、今年生まれた子 2 頭とメス親を含む 5 頭の群れ作りも検討したい。